

AI時代を生きる

校長 吉田 隆

明けましておめでとうございます。

皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

挙げられています。

年明けに、東京で働く同級生から聞いた話です。

今の小学生が、未来社会でAIに仕事を奪われることなく第一線で活躍するためには、コミュニケーション力や創造力が求められると言うことです。

「ある会社を訪ねた時、受付に座っている人をよく見たらAIロボットだったんだ。それで『〇〇課に取り次いでください』と話し掛けてみたけど、返答がちんぷんかんぷん。結局、受付の内線電話を使ったんだよね(笑)」

しかし現在、最新テクノロジーの進歩は、私たちに便利な生活を提供してくれると同時に、人間同士の直接的な関わりを希薄にしています。

完成度が今一步だったようですが、受付係をすでにAIロボットに替えている企業があることに驚嘆しました。数年後には改良が進み、内線電話も不要になるかもしれません。

- ・(昔)友達と直接対話↓(今)SNS
- ・(昔)顔を付き合わせてボードゲーム
- ↓(今)遠隔でオンラインゲーム
- ・(昔)店の人と会話をして買い物↓(今)無人レジの増加 等

AI(人工知能)が人間の知能を超える転換点Ⅱシンギュラリティ(技術的特異点)が二〇四五年に到来するという説が有力視されています。シンギュラリティによる具体的な変化の一つとして予測されているのは雇用です。AIの得意分野である記憶力や計算力を駆使する職業の多くが、AIに奪われると唱える学者もいます。

IT社会の推進者の一人であったステイブジョブズ氏は、自分の子どもにはスマホを与えず、家族との夕食時の語らいを大切にしていたそうです。子どもたちのコミュニケーション力が自然に育まれる環境は、現代社会から失われつつあります。今後、学校と家庭での意図的なアプローチが益々必要となるでしょう。

逆に生き残る仕事としては、複雑な対人コミュニケーションを必要とする仕事や創造性が求められる仕事などが

新潟小学校では、そのような未来社会で必要となる力の基礎を育むべく、新しいカリキュラム策定の最終段階に入っています。

今年も当校の教育活動へのご理解とご協力の程、宜しくお願いいたします。